

令和5年度 第5回白井市市民活動推進委員会（全体会）

日時:令和5年11月16日(木)

午後3時00分～5時00分

場所:白井市役所東庁舎3階 会議室302～304

○●委員 どうもお疲れさまでした。3点ありますが、1点目はワークショップについてで、すごく盛り上がり、時間が足りないぐらいの会合だったということです。ワークショップを効果的に取り回していくための運営方法の幾つかの手法がありますので、また何かあれば、ぜひ様々御相談に乗っていただければと思います。幾つか役立ちそうなメソッドとか、ツールなどもありますので。

2点目として、個別のところ、グリーンレンジャーさんについて、もしかしたら私、審査のときにも少しお話ししたかもしれないのですけれども、竹の保全整備の関係というのはかなり厄介な作業ではないかと思えます。

西日本でも厄介で、私も前職で東京農大にいたときに様々取り組んだことがあるのですけれども、たとえば燃料化するために複雑な処理をしようとする、すごくお金もかかるし、かなり大変なのです。ランニングコストもかかりますので、シンプルな処理の方法を検討するといいと思うのです。

さらに、竹も資源・素材として考えた場合、ただ処理して単に廃棄するのだと、やっぱりもったいない。ですので、ここにチップ化というのがあるのですけれども、チップ化の他に、無塩炭化器を用いて簡単に炭化して資源として使うこともできるのではないかと思います。そういった技術なんかがありますので、その辺なんかも考えるといいのじゃないかなと思うのです。

その他に、保全・整備活動で発生する木質系の残渣をボイラーの中に入れて、お湯を作るという簡易な装置なんかもあったりとかします。

そこら辺りの分野情報も少しウイングを広げてお調べになるといいのかなと思います。もし必要であれば、私も当時調べたものとか、最近もやっているものがありますので、そういった情報提供もできますので、これからの時期が多分、本格的に冬場の保全/整備活動のシーズンで、里山保全系の取組は盛んになるもの思いますから、御紹介できるかなと思っていますので、情報提供でした。

それから最後、3点目なのですけれども、補助金の問題、切れたとき問題のお話とか、今後、プッシュ型で様々、また情報提供してとか、そういう話になってくると思うのですけれども。前回、前々回と、ずっと気になっているのは、各団体が事務局、事務作業、そういった様々な助成金とか補助制度を利用していく際に、事務がかなり煩雑化するというようなことを各団体が指摘していたかと思うのです。ですので、そこら辺なんかも、サポートセンターもありますので、いろいろなサポートの仕方があるのかなというふうに思います。

というのも、私も実は、最近ちょっと事務がだんだん追い付かなくなってきたのです。研究所を二つ主宰していたり、研究室があり、かつ市民連携の組織で幾つか、コロナ後様々活性化していく中で、つくったものがあったりとか、一つは法人化してやっているところがあったりとか。だんだん各地にいろんな取組をやっていくと、皆様方の苦勞もすごく感じ取れるのですけれども、事務関係が結構大変になってきます。

そこで、私は今どうしているかというと、全国にいろんな連携の団体があるものですから、事務局をオンライン上にアプリを利用してつくりました。オンライン上に事務局をつくって、そこにアクセスして、いろんな方々で事務を共同的に効率的に回していくという、そんなようなことをやっています。これはジャストアイデアなので、こういうやり方もあるんじゃないかということなのですからけれども、幾つか共同事務室があってもよいのではないかと思うのです。

事務処理するものが一緒であれば、オンライン上でもうお願いしちゃうという発送ですね。そのオンライン事務局にアクセスして作業をすると、例えば私は今、自分の研究室と法人組織等の関係で秘書的な役割の人が4人いるのですけれども、1人は北海道に、1人は宮城におり、もう1人は新潟にいて、1人東京にいて、東京のメンバーは、時折対面で研究室に来るのですけれども、そんなような感じでも回していくことができます。

今回、分かったのは実は対面でどうしてもやらないと処理できないという事務作業はほとんどないです。オンライン上でもうアウトソーシングできるような時代となっていますので、そんなようなことも今後検討していてもいいんじゃないかなと思うのです。

せっかく横の連携が出てきたら、共同で取り扱えるような事務作業というのは、何かそういった共同で効率よくできるようなことを考えるということもありなのではないか、そして活動そのものに注力していけるようにしていく環境をつくっていくというのを、改めて見て思ったところです。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。何かコメントありますか。

●さん、どうぞ。

○●委員 私は、皆さん素晴らしい団体さんばかりなのですからけれども、グリーンレンジャーさんの今後のことがちょっと心配になる。心配する必要はないのかもしれませんが、このやられている内容の関係上、恐らく高齢者の方ばかりだと思って見たら、確かにそう。やはり高齢者ですと、結局これは、体が丈夫じゃないとできない活動なのです。

それで、新しく入ってくる方も多分そんなにいらっしやらないでしょうし、あと体調が万全じゃない方も徐々に出ていらっしやって、この活動を維持してい

くというのは、ものすごく大変なことだと思うのです。比較的新しい方を常時入れていかないと、活動の継続が難しいのではないかなと感じていまして。南山小学校区まちづくり協議会準備会の会長さんが事務局長さんということで、そんなに心配することはないのではないかなとは思いますが、市民活動支援課、まちサポ等でも、その辺のメンバーの補充ということで、サポートされたほうがよろしいのではないかなと、ちょっと余計な心配をさせていただきました。

あと、s k e t c h 倶楽部さん、今日、なかなかいい活動をされているなと思ったのですが、活動の中で、ばらっぱまんじゅうというのが結構なウエートで書かれているとは思いますが、私もちょっと、ばらっぱまんじゅう興味がありまして、公民センター主催の講習会に参加させていただきました。それで、ばらっぱまんじゅうを実際に作ってみたのですが、なかなかおいしいですよ。これですぐできるというのがよく分かったのですが、

問題は、ばらっぱの入手がえらい大変なのです。要するに、ちょっと欲しいなと思ってすぐ手に入るものじゃない。ツタの種類の植物の葉っぱを多分6月前後に採ってきて、それを冷凍保存されていると思うのです。それで、まんじゅうは、レシピがあればすぐ作れますけれども、そのばらっぱの入手がちょっと大変なので、この活動を継続されるときに、その入手はどうされているかなと心配なのですが。市の例えば特産品等にするのであれば、そのばらっぱを比較的、希望者が入手できやすくするような、何か考えとかサポートしていただけたらなという気がしました。

以上でございます。

○委員長 ありがとうございます。何かありますか。

○事務局 グリーンレンジャーさんのほうにつきましては、先ほど申し上げました南山小学校区のまちづくり協議会というのが設立に向けて動いていて、そのメンバーの中に白井高校の校長先生も入っていただいております。あとは、南山小学校の先生も入っていただいておりますので、そういったところで若い力を少し入れて、団体を継続的に活動ができるように支援していくことができればなというふうには考えております。

ばらっぱの入手、ばらっぱ全般のサポートというのは、公民センターのほうといろいろとタッグ組んで、このs k e t c h 倶楽部さん、活動されているかとは思いますが、ごめんなさい、入手の確保とかそういったところは、もちろん団体も考えていらっしゃるかと思いますし、公民センターのほうも少し考えて、あと今、委員でいらっしゃいます●委員が第二小のまちづくり協議会の会長でいらっしゃいますので、何か、もし、ばらっぱのことでアドバイス頂けたら、お願いします。

○●委員 ちょうど二つの問題ともちょっと関係するので、ばらっぱまんじゅう

うから先に行きますと、s k e t c h 倶楽部、一応、私も一員になっているので、s k e t c h 倶楽部で栽培まで考えています。

だから、そういう形で、普通に採り歩くというのは大変ですし、s k e t c h 倶楽部が公民センターでやっていたのは、いわゆるコミュニティーセンター、こちらのほうでもやるようになって、さらにそれを今度、白井高校でも、そのときにも、あそこで販売して。販売の点ではなかなか、田舎だと、あれ5分か10分で売れちゃうのです。二、三百個作って。

だから、あのまんじゅうのイメージというのが、ニュータウン地域の人にとってみると、昔懐かしいとってくれる人はあれだけけれども、そうじゃないと違いかも。その辺のところ、田舎でどうして売れるのかと、逆にあるのですけれども、一応 s k e t c h 倶楽部は、そこまで考えているみたいですが、やっぱり葉っぱの問題は十分、分かっているのです。

だから、今、ばらっぱまんじゅうを作れる人の養成というのは、少しずつ講座を開いて、●さんがそれに参加したと思うのですけれども、確かに葉っぱの問題は、重要な問題だと思います。

それから、先ほど、グリーンレンジャーさんの問題なのですけれども、ちょうど第二小学校区まちづくり協議会のほうには、環境塾さんが入っているのです。環境塾さんは大分事業をいっぱいやっていて、その中の手賀沼の草刈りとか、金山落の雑草駆除とか、そういうのには、このまちづくり協議会のほうが協力する形で、いつも何人か行っているのです。向こうはなかなか、若い人がいるのですけれども、でも、そのうちの1回は、必ず白井高校のボランティアが来てくれるというような形で。ですから、ちょうど南山にこれからまちづくり協議会ができるので、そういうところの協力を得ていけば、この活動が続くのではないかなと思うのです。

環境塾さんも大分ベテランの団体なので、自分たちでほとんどできちゃうのですけれども、でも、それに協力するメンバーが増えることで、非常に時間が短縮できるというか。この前も手賀沼のちょうど金山落のところ、桜並木、今井の桜のところがあるのですけれども、あそこにもうシノ竹が、高いのが生えちゃっていたのです。何か所もあるので全部はできないのですけれども、そのうちの1か所の部分を両側全部切りましたら、見通しがよくなって、桜のときには桜がよく見えると思うのです。いつの間にか、どうしてもシノ竹の背の高いのが、どんどん高くなっちゃって全く見えないのです。せつかくの、川も見えないし、桜も、向こうの桜は見えないとか、そんな状況になっているので、そういうところで、まちづくり協議会がうまく設立されていけば、そういうところの協力、確かに白井高校もあるので、白井高校の先生も今すごい力を入れているので、そういう協力を得ていけば、この活動もスムーズに行くようになるのかもしれないと

思いました。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。

長島さんがちょっと。大丈夫ですか。

○●委員 ちょっと所用がありまして、ここで中座させていただきますので、長い間いろいろお世話になりました。ありがとうございます。

○委員長 よろしいですか、それで。申し訳ありません、ばたばたで。ありがとうございます。

では、続けて何かコメントある方いらっしゃいますか。

●さん、どうぞ。

○●委員 この中に出ている団体さんと、結構、講座的なものでつながっていたりして、桜台センターなのですけれども。しろいd e あそ部さんでは、うちの子供たちのための講座の講師になっていただいたりとか、これコミュニティセンターでも、街コン関係でお手伝いいただいていたりとかやっています。

s k e t c hさんのやっている、ばらっぱまんじゅうなのですが、s k e t c hさん自体とはつながっていないのですけれども、ばらっぱまんじゅうづくりというのをワクワクひろばさんでしたっけ。会員の●さんという方が、作り方を教えに来てくださったりとかして、子供たちには、徐々に徐々に白井のいいところを伝えているところです。

ハートの会さんとも、うちはつながっていますので、ハートの会さんが今、ヤング桜台ベースみたいなのをつくってくださって、今現在、登校拒否の方だったり、そういう子をサポートするための、昔は登校拒否だったという若い子たちが来てくれたりとかして、そういう人たちが桜台のセンターの中でつながっているの、若い力って、そんなところから来るかなという気がしています。人がいないよとか、若い力がないよというのは、どこでも大変なところなのですけれども、皆さんおっしゃっていたつながる力というのは、そうやってつながっていけるのかなみたいなことを感じました。

以上でございます。取り留めないです。すいません。

○委員長 ありがとうございます。まさに先ほどから、座談会でつながって、ちゃんと他の採択団体のイベントには顔出してというのは、非常に私もいいきっかけになっているのではないかなと思いますので、この調子で頑張っていたいただければと思っておりますけれども。

どうでしょう、次の議題もあるので、よろしいですか、次行ってしまっても。ありがとうございます。

こういったコメントの趣旨を踏まえて、この取組自体は、今も皆さんコメントしていただいたとおり、非常にいい取組だと思いますので、引き続き来年度以降

もやっていただければなと思います。

○●委員 令和5年の事業計画のほうで、資源掘り起こしの1月に、まちサポ新年会とあって、すごい興味があるのですが、これ、どういうことをなさるのでしょうか。

○事務局 その説明が漏れていました。申し訳ございません。

これは、アンケートで、団体同士の交流といったこともまちサポに期待しているというお声も聞いております。

9月に行ったまちサポひろば以降、団体同士の交流というのができていなかったの、9月のまちサポひろばの振り返りをしつつ、新年度に当たって、各団体の方、あと市民の方も入っていただいてもと思っておりますけれども、それぞれが今年度の抱負を一言色紙に書いて、それを30秒メッセージみたいな形でそれぞれの抱負と今年度の意気込みを発表していただいた上で、何か一緒に組めることないかとか、いろいろな交流が生まれるような新年会をやりたいなというふうに思っている次第でございます。

○委員長 ありがとうございます。他はいかがですか。

●委員、どうぞ。

○●委員 質問をさせてください。

14ページの相談実績のところに関わることなのですが、これはどういうやり方で相談をして、どういうカウントの仕方ですか。

○委員長 どうぞ、一問一答で。

○事務局 相談は、カウントは、相談がありますと言って来た方で、相談対応を窓口でした方が1件というふうにカウントしています。なので、ここに上がっているのは件数です。もちろん2人で来て、2人で1件というところもあります。

○●委員 対面ですね、全て。

○事務局 対面です。

○●委員 ここから先は、アドバイスと言うとおこがましいのですけれども、対面ではない形での相談は、ないということですか。

○事務局 電話とかで、ちょっと今、困ってるのだけれどもと言って、スマホのとか、そういうICT系の支援をしたりとかもありますし、電話で問合せもあります。こういう団体さんいないですかとかという場合も残しているものもあります。

○●委員 それは、基本的にはここに含まれていない感じ。

○事務局 そうですね。簡単に終わっちゃったりしたものは、そこまで相談件数としてカウントしていないものも、ちょっとあるとは思いますが。

○●委員 分かりました。相談業務の稼働率があんまり高くないというのが

ちょっと気になる場所なのです。これだけ登録団体もありますので、本来的には、もうちょっとあってもいいだろうという感じを受けるのです。

サポートセンターの場合、重要な機能としては、情報発信とか提供というものもあるのだけれども、双方向の学びを市民とやっていると、活動やスキルがブラッシュアップしていかないわけです。だから、その点から考えると、相談業務というのには、調査研究とかスタッフ研修的な要素も入っているものではないかと考えます。

つまり、相談の場合には、相手先が主体で来るので、どちらかというところから一方通行的な提供じゃなくて、双方向の学びになるのです。

ですので、この相談業務のところを、すごく充実させることができれば、サポートセンターの遂行能力の、いろいろな能力の底上げにもつながるのではないかと思います。かつ、団体さんが、結構お話しができる人が多いということも分かっていますから、そういうところをやれるようにしておくといいと思うのです。

その際に、物理的に対面だけの携帯にしてしまうとやっぱりなかなか日常的に実施していくことが難しいのだと思うのです。オンラインでもできるとか、チャットもできるとか、何かいろいろな、ツールを用いてできないでしょうか。例えば登録団体ごとにウェブサイトのマイページがあってもいいぐらいで、それでチャットがひも付いていて、対応もして、必要だったらオンラインでこの時間帯つなぎましようとか、そういういろいろな組み合わせが今はできる時代となっています。そんなにお金もかからないと思うのです。そういう仕組みをちょっと導入すると、一気に底上げに上がると思うし、情報収集上も有利になりますのでというのを御検討されたらどうかななんていうふうに思った次第です。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。他はいかがでしょう。

●さん、どうぞ。

○●委員 ●でございます。実績報告、すごく多くの取組をされているなということでも聞かせていただきました。

中でも、やはり9月9日に、まちサポさんと、ボランティア連絡協議会と社協のほうでボランティアまつり、同日開催ということで行わせていただいて。不幸なことに、まちサポさんとボランティアセンターは、保健福祉センターが一番端と端にあるということで、なかなか同日開催のメリットが今回十分に発揮できなかったところもあるのですが、逆にこの距離を生かした取組が何かできないかなということで、もし令和6年度、また同日開催でできるのであれば、その辺どういうふうにとったら相乗効果が見込めるかとかいうのも、引き続き相談に乗っていただいて進めていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。他、●さん、●さん。

○●委員 多分、回ってくるのかなと思って、やっぱり2人が残ったなと思っていたのですが、●でございます。

4年度の実績をお伺いしましたが、多分この会議の中で、多目的スペースの利用がちょっと少ないのじゃないのという話が出た時期もあったかと思うのですが、今回4年度については、大分増えているということで、いろいろなことで使っていただいているのかなと。せっかくこういった人が集まる場所、市役所のところにあるスペースですので、今後も使っていただけるように企画をしていただきたいと思います。

それと、昨年と今年と大分、多岐にわたり、いろいろなものが入っているので、楽しみかなというふうに思っておりますが、あまり無理すると、先ほどのどこでしたっけ。

○委員長 しろい d e あそ部さん。

○●委員 のように息切れするといけないですから、これだけいろいろな活動をされている方たちに対してということもあるでしょうし、活動されていない市民の方向けにということで、いろいろと種をまけば、その分、芽が出てくるかと思いますが、あんまり頑張り過ぎちゃっても大変だろうなというふうに思っておりますので、そこそこに頑張っていただければいいかなというふうに思っています。

以上でございます。

○委員長 ありがとうございます。

○●委員 ●です。すごい勢いでお二人ともお話ししていただいて、ありがとうございました。

本当に多目的スペース、さっき●さんが言っていたのと同じなのですが、もっと活用したほうがいいんじゃないかと言った立場の人間からしてみると、この何とかしてみる会シリーズ、ぜひ応援していますし、こういうのも企画しているのだなというので、ちよろちよろ F a c e b o o k とかでは見かけてはいるので、ぜひ、これを倒れない程度に続けていってもらえたらなというふうに思いました。

作業室にコピー機というか、印刷機みたいのがあると思うのですが、前、多分、私、値段聞いたかどうか忘れちゃったのですが、カラーはないですよ。

○事務局 印刷は2色です。

○●委員 2色ですよ。1枚幾らなのでしたっけ、ごめんなさい。

○事務局 印刷は、30枚10円です。



- 委員 30枚で10円で、2色ということは。
- 事務局 2色で10円です。
- 事務局 黒刷りと赤刷りの2色で、印刷ができるというやつです。
- 委員 カラーができると、もっと、ちょっと違かったかなと。
- 事務局 カラーは、家庭用のカラープリンターで1枚20円というのはあるのですけれども。
- 委員 今、ラクスル、このチラシ、このいい紙っぺらのやつで、多分1枚10円ぐらいでできちゃうので、市役所の方も、結構ラクスル頼んでいるところが多いかと思うのですけれども、それだったらちょっと違うなどは思ったのですけれども。それは大丈夫です。
- とにかく、すごく毎月毎月、情報もいろいろ頂いていますので、今後も本当に、できたら、2回目なのですけれども、会シリーズ頑張っていたらなというふうに思います。ありがとうございました。
- 以上です。
- 委員長 ありがとうございました。
- ちなみに、このチラシもC a n v aで作っているのですよね。
- 事務局 このチラシは、そうですね。C a n v aで素材ベースにして作っています。